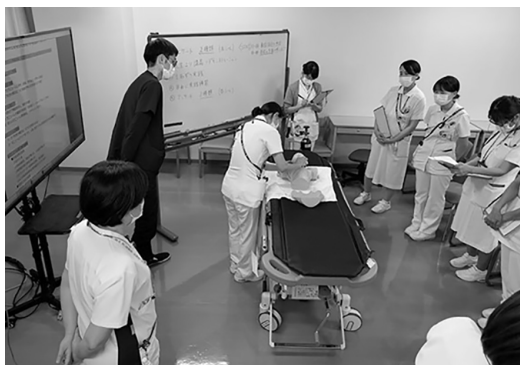


医療的支援が必要な子どもたちを地域で迎え入れる準備をしよう!! —モデル人形を活用した研修会の開催—

渡邊 理恵 ●久留米大学 医学部 看護学科 講師



小児病棟看護師向け研修会(講師は病棟医師)

要旨

全国に約2万人と言われる医療的ケア児の中でも、特に生命に直結する気管切開・人工呼吸器の管理に関しては難しく、地域での受け入れの障壁になっているとされている。そこで今回、気管切開の管理・ケアの方法やその根拠を理解でき、繰り返し練習できる「小児気管切開モデル人形」を活用した研修会を開催した。

この人形は2019年、杉浦記念財団の助成を受けて、これまでの課題を抽出した結果に基づき、以下の内容について教育効果を期待し作成したものである。

- ①頸部の可動域を確保し、頸部の支え方、抱っここの仕方の練習ができる。
- ②カニューレ部を可視化することで、管理やケアの根拠について理解しやすい。
- ③軽量で携帯性が高く、持ち運びが可能となり様々な場所で繰り返し練習ができる。
- ④現在実施している管理・ケアの技術項目を多く経験できるような素材・機能である。

これらの機能を備えたモデル人形を活用した研修会にどのような効果があったのか、さらにこのモデル人形の修正点についても、実施後のアンケートより明らかとなったため、その活動についてここに報告する。

1.背景と目的

①医療的ケア児を迎える地域の支援者の不足

全国の訪問看護ステーションは、現在約1万1580カ所と言われている。そのうちの約半数しか小児の受け入れをしていない。その主な理由は、小児看護の臨床経験がない、研修会などの学ぶ機会がないというものである。

2016年厚生労働省は、全国に医療的ケア児の地域支援促進について発信しており、様々な研修会は行われるようになった。しかし、実践的支援を目指した、技術習得に関する研修会は少なく、地域支援を実践できる人材不足は大きな課題である。

②地域で迎える実践的研修会の必要性

2021年6月「医療的ケア児および家族の支援法案」が公布された今、必要性を叫ぶ研修会ではなく、医療的ケア児の支援を実施可能とする具体的研修会の開催が急務であると考ええる。

そこで2019年杉浦記念財団の助成を受けて作成した「小児気管切開モデル人形」を活用し、特に難しいと言われている気管切開の管理・ケアに関する研修会を開催した。実施上の注意点とその根拠が理解でき、繰り返し練習のできるモデル人形を教材として活用することで、支援者の人材育成としての効果と課題を明らかにする。

さらに、モデル人形というこれまでなかった教材が介入することで、家族を含む関係職種間で課題が共有され、質の高い連携の促進が期待できるのか、示唆を得ることを目的とする。

2. 活動の方法

① 複数の教材の準備

モデル人形の追加制作を行った。(1体目を作成した「京都科学」に依頼)

② モデル人形の説明と研修会開催の呼びかけ

モデル人形作成前にインタビューを行った施設を中心にリクルートを行った。

③ 研修会開催の希望施設への対応

以下の手順で活動を行った。

A: モデル人形1体を施設に送る。手元に1体置きオンライン (Zoom) にてモデル人形の機能と、活用方法について説明。

B: 説明会后、モデル人形を活用して繰り返しの練習、施設内の研修会の開催、家族指導を行っていただいた (研修会后約2か月間貸し出した)。

C: 研修会による知識と練習の実施後に関するアンケートに回答いただいた。アンケートは Visual Analogue Scale (VAS) と自由記述とした。

3. 現状の成果・考察

【成果】

1) 研修会開催施設	10 (施設)
① 病院 (総合病院・小児病院)	4
② 医療福祉施設 (入所・通所)	2
③ 訪問介護事業所	2
④ 訪問看護ステーション	1
⑤ 看護大学	1
2) 参加者数と立場 (職種)	117 (名)
<指導する立場>	(32)
① 医師	5
② 看護師	24
③ 介護事業所管理者	2
<指導を受ける立場>	(86)
① 病院看護師	37
② 訪問介護士	12
③ 病院保育士	9
④ 福祉施設看護師	8
⑤ 家族	7

⑥ 訪問看護師	4
⑦ 相談専門支援員	3
⑧ 理学療法士	2
⑨ 看護学生	2
⑩ その他	2

3) モデル人形活用の効果 VAS10点

(1) 指導のしやすさ 8 (平均)

- ① 可視化により吸引チューブ挿入の長さの根拠を伝えやすい。
- ② 説明しながら確認しながら指導できる。
- ③ 本人で練習しないため負担をかけない。
- ④ 緊急時の対応も指導できる。

(2) 理解のしやすさ 8 (平均)

- ① 可視化により気管とカニューレの位置関係がわかりやすい。
- ② 吸引チューブの長さが決められている意味がわかった。
- ③ 抱っここの仕方や吸引の仕方ですぐ肉芽ができたり、出血することがわかったので一層気をつけることができそうだ。

(3) 恐怖や不安の軽減 (自由記述のみ)

- ① 自分のペースで練習できるので、本人にする時の恐怖心が少ない。
- ② 皆で共通のイメージができる安心感がある。
- ③ 具体的に学び、練習したことで、前向きな気持ちになった。

【考察】

モデル人形活用の効果は、可視化によるわかりやすさという点で効果的であり、安全で確実な技術修得につながると言える。

さらに家族や介護士、保育士という非医療職を含めた多職種が、同一の教材を共有できる安心感につながったと言える。つまり多職種をつなぐ質の高い連携を可能とする一助となると考える。

4. 今後の展望

活用したモデル人形に対して、気管切開に加え、胃瘻、経管栄養の管理など改良を加える意見をいただいた。今後、増加する多様な医療的ケア児の支援に関わる人材育成と連携促進のために改良を重ね、効果的な活用の提案を継続していきたい。